

社会保障・税番号制度の概要 及び分科会の進め方について

平成26年3月18日

内閣官房IT総合戦略室

社会保障改革担当室

社会保障・税番号制度の概要

～行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律～

基本理念

- 個人番号及び法人番号の利用に関する施策の推進は、個人情報保護に十分に配慮しつつ、**社会保障制度、税制、災害対策に関する分野**における利用の促進を図るとともに、他の行政分野及び行政分野以外の国民の利便性の向上に資する分野における利用の可能性を考慮して行われなければならない（第3条第2項）。

個人番号

- 市町村長は、法定受託事務として、**住民票コードを変換して得られる個人番号**を指定し、**通知カード**により本人に通知（第7条第1項）。盗用、漏洩等の被害を受けた場合等に限り変更可（第7条第2項）。中長期在留者、特別永住者等の外国人住民も対象。
- **個人番号の利用範囲を法律に規定**（第9条）。①国・地方の機関での**社会保障分野、国税・地方税の賦課徴収及び防災等**に関する事務での利用、②当該事務に係る申請・届出等を行う者（代理人・受託者含む）が事務処理上必要な範囲での利用、③災害時の**金融機関での利用に限定**。
- 番号法に規定する場合を除き、**他人に個人番号の提供を求めることは禁止**（第15条）。本人から個人番号の提供を受ける場合、個人番号カードの提示を受ける等の**本人確認を行う必要**（第16条）。

個人番号カード

- 市町村長は、**顔写真付きの個人番号カードを交付**（第17条第1項）。この場合、通知カードの返納を受ける。
- ①市町村は条例で定めるところにより、②政令で定めるもの（民間事業者等）は政令で定めるところにより、**総務大臣が定める安全基準に従って、ICチップの空き領域を利用することができる**（第18条）。※民間事業者については、当分の間、政令で定めのないものとする。

個人情報保護

- 番号法の規定によるものを除き、**特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報）の収集・保管**（第20条）及び**特定個人情報ファイルの作成を禁止**（第28条）。
- **特定個人情報の提供は原則禁止**。ただし、行政機関等が**情報提供ネットワークシステムを使用しての提供**など、番号法に規定するもの限り可能（第19条）。※民間事業者は、情報提供ネットワークシステムを使用できない。
- 情報提供ネットワークシステムで情報提供を行う際の**連携キーとして個人番号を用いない等、個人情報の一元管理ができない仕組みを構築**。
- 国民が自宅のパソコンから情報提供等の記録を確認できる仕組み（**マイ・ポータル**）の**提供**（附則第6条第5項）、**特定個人情報保護評価の実施**（第27条）、**特定個人情報保護委員会の設置**（第36条）、**罰則の強化**（第67条～第77条）など、十分な個人情報保護策を講じる。

法人番号

- 国税庁長官は、法人等に法人番号を通知（第58条）。**法人番号は原則公表**。※民間での自由な利用も可。

検討等

- 法施行後3年を目途として、**個人番号の利用範囲の拡大**について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて、国民の理解を得つつ、所要の措置を講ずる。
- 法施行後1年を目途として、**特定個人情報保護委員会の権限の拡大等**について検討を加え、その結果に基づいて所要の措置を講ずる。

マイナンバー（個人番号）の利用範囲

別表第一（第9条関係）

年金分野

⇒年金の資格取得・確認、給付を受ける際に利用。

- 国民年金法、厚生年金保険法による年金である給付の支給に関する事務
- 国家公務員共済組合法、地方公務員等共済組合法、私立学校教職員共済法による年金である給付の支給に関する事務
- 確定給付企業年金法、確定拠出年金法による給付の支給に関する事務
- 独立行政法人農業者年金基金法による農業者年金事業の給付の支給に関する事務 等

労働分野

⇒雇用保険等の資格取得・確認、給付を受ける際に利用。ハローワーク等の事務等に利用。

- 雇用保険法による失業等給付の支給、雇用安定事業、能力開発事業の実施に関する事務
- 労働者災害補償保険法による保険給付の支給、社会復帰促進等事業の実施に関する事務 等

福祉・医療・その他分野

⇒医療保険等の保険料徴収等の医療保険者における手続、福祉分野の給付、生活保護の実施等低所得者対策の事務等に利用。

- 児童扶養手当法による児童扶養手当の支給に関する事務
- 母子及び寡婦福祉法による資金の貸付け、母子家庭自立支援給付金の支給に関する事務
- 障害者総合支援法による自立支援給付の支給に関する事務
- 特別児童扶養手当法による特別児童扶養手当等の支給に関する事務
- 生活保護法による保護の決定、実施に関する事務
- 介護保険法による保険給付の支給、保険料の徴収に関する事務
- 健康保険法、船員保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律による保険給付の支給、保険料の徴収に関する事務
- 独立行政法人日本学生支援機構法による学資の貸与に関する事務
- 公営住宅法による公営住宅、改良住宅の管理に関する事務 等

税分野

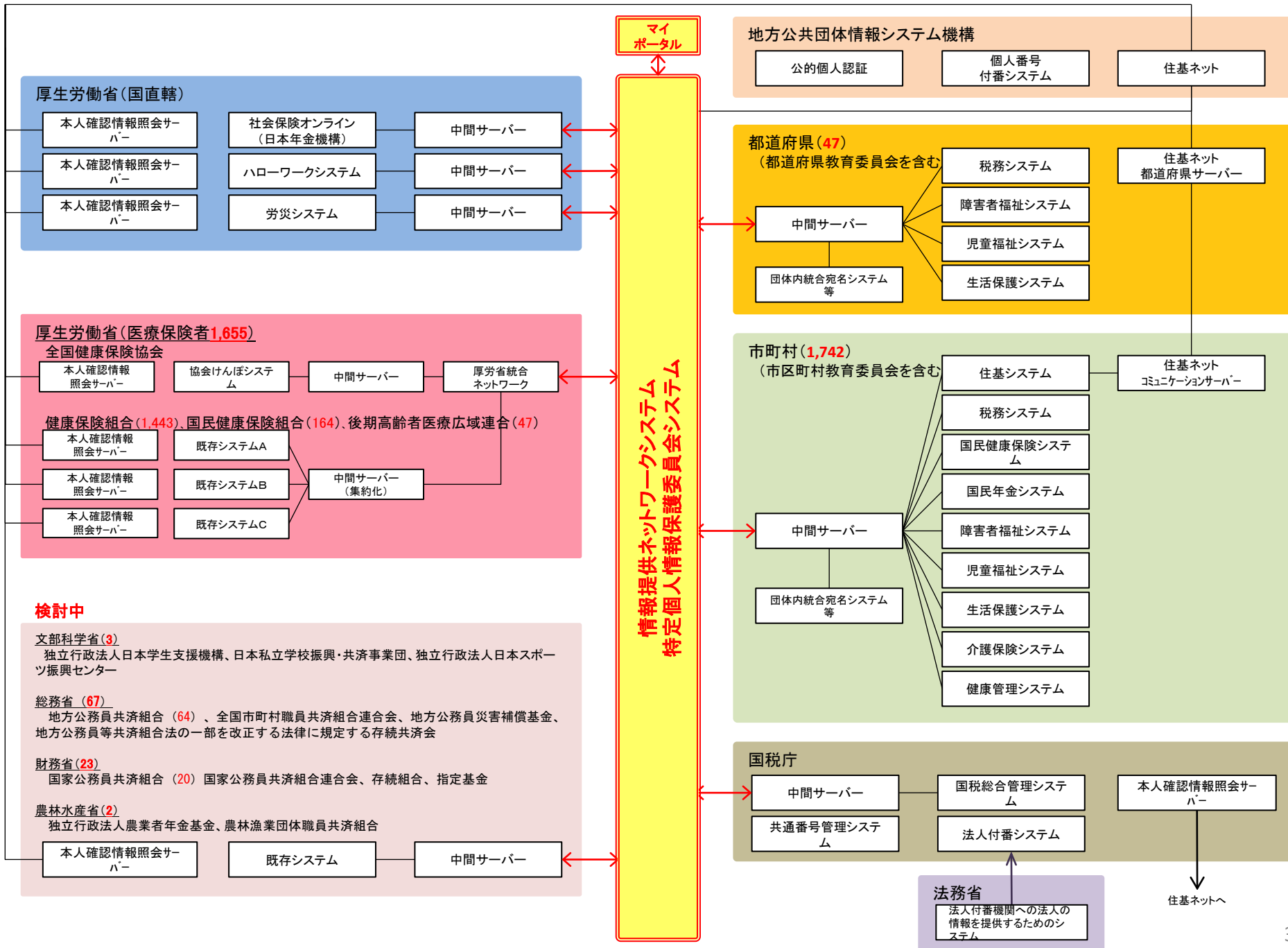
⇒国民が税務当局に提出する確定申告書、届出書、調書等に記載。当局の内部事務等に利用。

災害対策分野

⇒被災者生活再建支援金の支給に関する事務等に利用。
⇒被災者台帳の作成に関する事務に利用。

⇒上記の他、社会保障、地方税、防災に関する事務その他これらに類する事務であって地方公共団体が条例で定める事務に利用。

番号制度関連情報システム全体概要図



社会保障・税番号制度導入のロードマップ（案）

2013年
(H25年)

2014年
(H26年)

2015年
(H27年)

2016年
(10月) (H28年)

2017年
(H29年)

制度構築

平成二十五年四月三十日
公布
平成二十四年五月十四日
成立

政省令等の整備

別表第一、第二の事務、情報を定める主務省令の制定

法人番号の通知・公表

申告書・法定調書等への法人番号の記載

個人番号(マイナンバー)の通知

個人番号カードの交付

順次、個人番号(マイナンバー)利用開始

【2016年1月から利用する手続のイメージ】

- 社会保障分野
 - ・ 年金に関する相談・照会
- 税分野
 - ・ 申告書、法定調書等への記載
- 災害対策分野
 - ・ 被災者台帳の作成

情報提供ネットワークシステム、マイポータルの運用開始

システム構築

システム要件定義・調達

調査研究

工程管理支援業務

設計

開発・単体テスト

総合運用テスト

2017年1月より、国の機関間の連携から開始し、2017年7月を目途に、地方公共団体等との連携についても開始

個人情報保護

委員
国会同意

委員
国会同意

委員
国会同意

委員会規則の制定

情報提供ネットワークシステム等の監査

特定個人情報の取扱いに関する監視・監督

特定個人情報保護評価指針の作成

特定個人情報保護
設置
委員会
(平成二十六年一月一日)

特定個人情報保護評価書の受付・承認等

広報

番号制度に関する周知・広報

当面の検討の進め方①

社会保障・税番号制度については、役割が主に「名寄せ」「本人確認」「電子サービス」に大別されることや、現行制度の許容範囲・制約等を踏まえ、検討を進める必要。

名寄せ

【個人番号】

- 個人情報に個人番号を付すことにより、同一人のものであることの確認（名寄せ）を正確かつ迅速に行うことが可能。名寄せした情報を行政機関等の間でシステム連携等により共同利用することが可能。
⇒ 公平かつ効率的な行政サービスの実現（正確な資格確認、添付書類の削減等）
- 但し、①国・地方の機関での社会保障分野、国税・地方税の賦課徴収及び防災等に関する事務での利用、②当該事務に係る申請・届出等を行う者（代理人・受託者含む）が事務処理上必要な範囲での利用、③災害時の金融機関での利用に限定。

【法人番号】

- 官民を問わず、利用可能（原則、ホームページ等で他の基本情報と併せて公表予定）。

本人確認

【個人番号カード】

- 氏名・住所・生年月日・性別・顔写真が掲載され、デザインが統一されており、身分証明書として広く利用可能。
- オンラインで本人確認が可能な公的個人認証（民間利用にも開放）に対応。
- ICチップの空き容量を、①市町村は条例に定めることにより、②政令で定めるもの（民間事業者等）は政令で定めるところにより、利用可能（独自IDの認証等）。
※ ただし、民間事業者については、当分の間、定めないものとする。

電子サービス

【マイポータル（情報提供等記録開示システム）】

- 自己情報及び情報提供記録の確認を行う（本人確認に個人番号カードを利用）。
- その利用に関し、情報弱者対策をとることとされている。

【マイガバメント】

- 行政のコンシェルジュサービスともいえる利用者一人一人のニーズに合ったオンラインサービス（具体的なサービス内容は今後検討）
- 個人情報の開示やワンストップ／プッシュ型サービスの提供につき、民間との連携や本人確認の簡素化も視野に入れ、検討。

当面の検討の進め方②

- 第1回（3月18日） 社会保障・税番号制度の概要及び検討の進め方
マイポータル／マイガバメントの在り方
- 第2回（3月27日） 個人番号カードの利活用方策
- 第3回（4月上旬） 法人番号の利活用方策
個人番号の更なる利活用ニーズ
- 第4回以降～ 論点整理・取りまとめ案の検討
（必要に応じて、追加的な検討）
- 5月中 中間とりまとめ（案）の策定